

アルゼンティン共和国
情報処理研修センター協力事業
巡回指導調査団報告書

1993年10月

国際協力事業団

701
00.7
MIT

鉦開協
JR
93-38

JICA LIBRARY



1120125181

27814

アルゼンティン共和国
情報処理研修センター協力事業
巡回指導調査団報告書

1993年10月

国際協力事業団

国際協力事業団

27814

序 文

アルゼンティン共和国政府は経済自立促進、経済基盤強化及び産業発展と民生の向上の両立を目指し、経済・産業に不可欠である情報処理の促進に力を注いでいる。

その一環としてアルゼンティン共和国政府は、「情報化の普及」に資するため、科学技術省情報開発局の傘下に「アルゼンティン情報処理研修センター」を設立することを計画し、我が国にプロジェクト方式技術協力を要請してきた。

この要請を受けて我が国政府は、国際協力事業団（JICA）を通じて1988年7月に事前調査団を派遣し、要請の背景、計画の妥当性、協力の規模等を調査し、その後さらに協力内容の詳細を詰めるための長期調査員の派遣を経て、1991年12月に実施協議調査団を派遣して討議議事録（Record of Discussions）の署名を行った。

本件プロジェクトは、同討議議事録に基づき、1991年12月13日から5年間にわたり技術協力を実施中である。

プロジェクト開始後、約1年9ヶ月を経過した現時点において、JICAはプロジェクトの進捗状況の確認及び今後のプロジェクト運営についてアルゼンティン側関係者と協議を行い、年次計画（Annual Work Plan）を策定することを主な目的として、1993年9月17日から9月28日まで巡回指導調査団を派遣した。

本報告書は同調査団の調査結果をとりまとめたものである。ここに本調査団の派遣に関し、ご協力をいただいた日本・アルゼンティン両国の関係各位に対し深甚の謝意を表するとともに、あわせて今後のご支援をお願いする次第である。

1993年10月

国際協力事業団

鉱工業開発協力部長

柿 沼 宇 佐

写 真



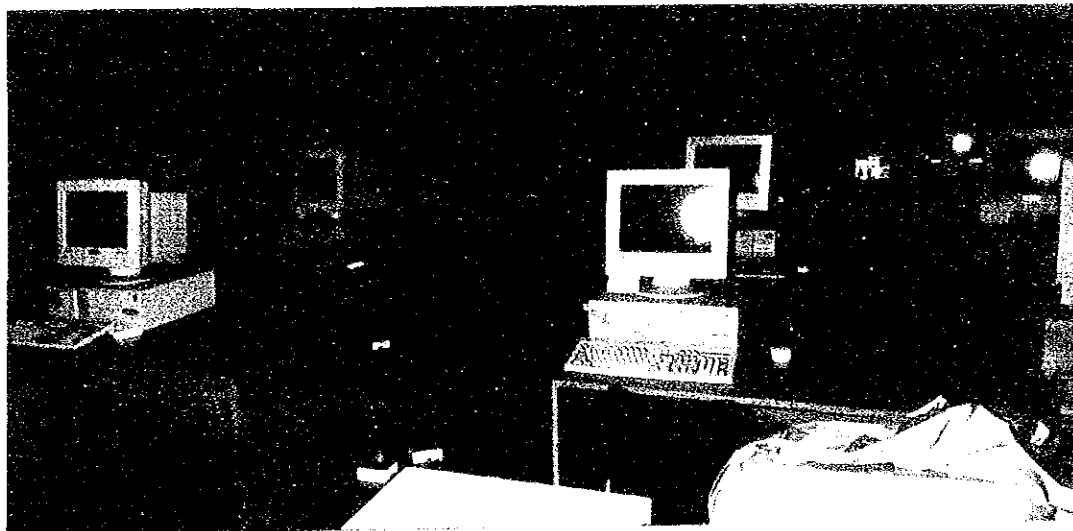
協議議事録署名



科学技術庁との協議



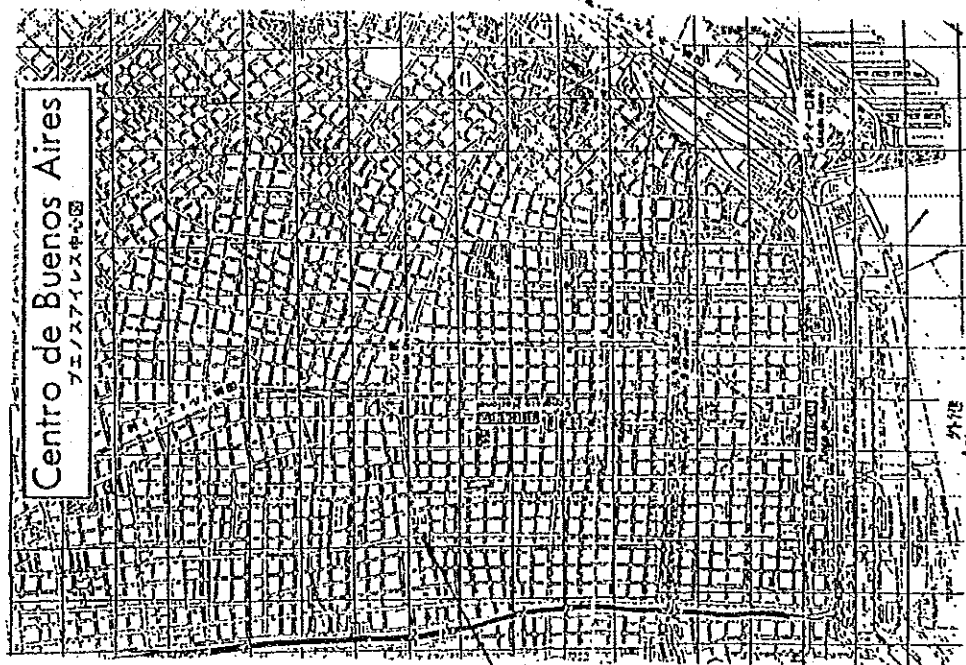
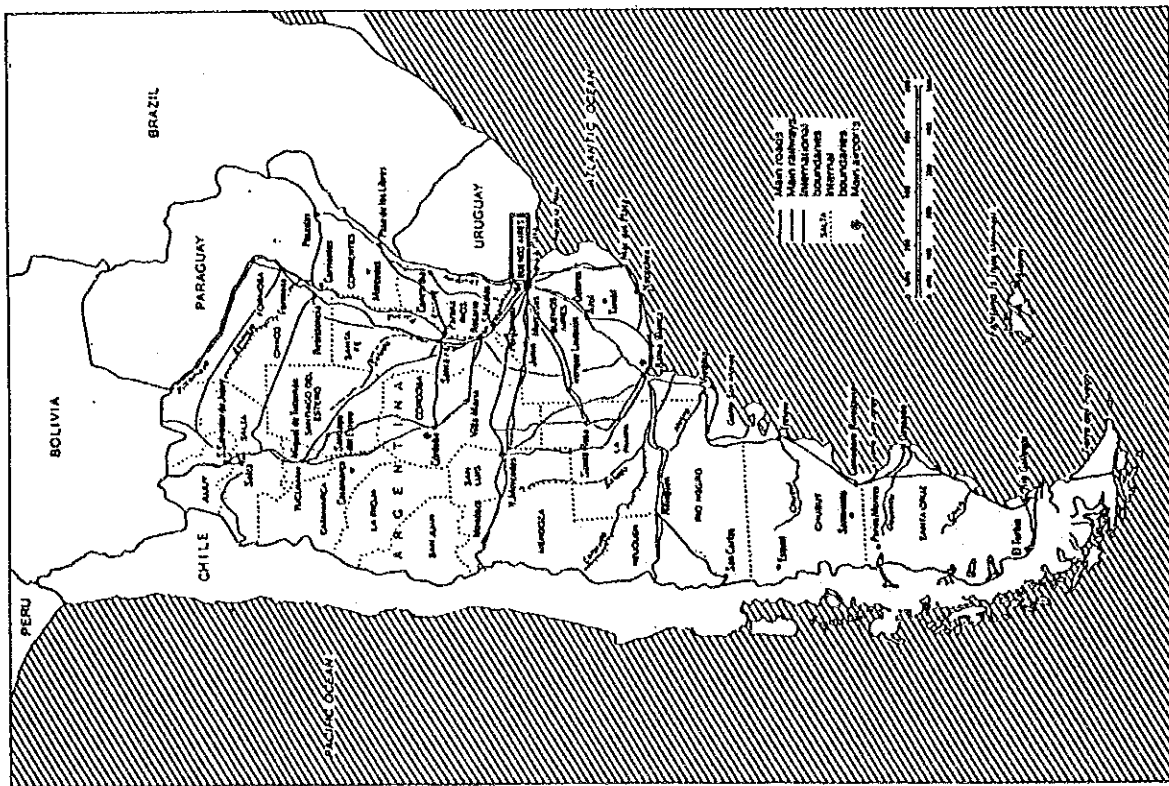
情報処理研修センターとの協議



供与機材の設置状況

プロジェクト位置図

アルゼンティン



プロジェクトサイト
情報処理研修センター
INDEPENDENCIA 2625

目 次

序 文
写 真
地 図

1. 調査結果の要約	1
2. 計画打合せ調査団派遣	3
2-1 調査団派遣の経緯と目的	3
2-2 調査団の構成	3
2-3 調査日程	3
2-4 主要面談者リスト	4
3. 暫定実施計画（T.S.I.）の進捗状況と次年度計画	7
3-1 日本側	7
(1) 専門家派遣	7
(2) 研修員の受入れ	7
(3) 機材供与	8
3-2 アルゼンティン共和国側	10
(1) 建物施設等プロジェクト・サイト基盤整備状況	10
(2) 機材措置及び維持管理状況	11
(3) 組織、カウンターパート及びスタッフの配置	12
(4) ローカルコスト負担	12
4. 技術協力計画（T.C.P.）の進捗状況と次年度計画	15
4-1 研修コース	15
4-2 合同委員会の開催	15
4-3 開所式	16
5. プロジェクト運営上の問題点	17
5-1 センター組織の確立	17

5-2	カウンターパート、スタッフ等の勤務体制及び増員要求	17
5-3	センターの予算、経費支出の明確化及び プロジェクト活動に必要なローカルコストの確保	17
5-4	供与機材の確保	17
6.	調査団所見	19
資料1	ミニッツ	21

1. 調査結果の要約

1990年4月のプロジェクト協力開始後、現在までの約1年9カ月間に、長期派遣専門家6人及び短期派遣専門家5人の計11人を派遣し、6人の研修員を受け入れた。

専門家派遣及び研修員受け入れについては現在までのところ、94年度4月に予定されている基礎コースのコース内容策定に関連し、短期専門家の派遣が遅れているが、研修員受け入れについては概ね計画通り進展している。

また、機材供与に関しては現在までサーバー、ワークステーション、プロッター等の機材を中心にC.I.F.で約195,000千円分を購送した。一方、アルゼンティン共和国側（以下「ア側」という）の本プロジェクトに対する予算額及び本プロジェクトの配置職員数は1993年度8月までの実績累計額として、約320,000ペソ、1993年度9月現在9名（計画では17名）となっている。

研修コースは、カリキュラムを日本側・アルゼンティン共和国側（以下「日・ア側」という）と打合せのうえ策定中であるが、コース内容について日・ア側で意見の相違があり、11月に開催予定の合同委員会まで調整すべく鋭意努力中である。また、ア側の組織、カウンターパート（以下「C/P」という）、スタッフの配置、ア側のローカルコスト等に、ア側の種々の事情も相まって一部不十分な点が見受けられたが、本調査団との協議を踏まえ、ア側は早急に具体的改善措置を取ることを確約した。

今後は94年4月に開講を予定している基礎コース、95年4月に開講を予定している上級コースに向け、プロジェクトの組織、体制の整備を図ると共に、技術移転内容を日・ア側双方で協議し、その詳細を決定していく必要がある。

2. 計画打合せ調査団派遣

2-1 調査団派遣の経緯と目的

「アルゼンティン情報処理研修センター」に対するプロジェクト方式技術協力要請は、1986年5月にアルゼンティン共和国政府から日本国政府に対して正式要請された。

この要請を受けて我が国政府は、国際協力事業団（JICA）を通じて1988年7月に事前調査団を派遣し、要請の背景、計画の妥当性、協力の規模等を調査し、その後さらに協力内容の詳細を詰めるための長期調査員の派遣を経て、1991年12月に実施協議調査団を派遣して討議事録（Record of Discussions）の署名を行った。

本件プロジェクトは、同討議事録に基づき、1991年12月13日から5年間にわたる技術協力が開始され、1993年9月現在、長期、短期あわせて11人の専門家が派遣され技術協力中である。プロジェクト開始後、約1年9カ月を経過した時点において、JICAはプロジェクトの進捗状況を確認するとともに今後のプロジェクト運営についてアルゼンティン共和国側関係者と協議を行い、年次計画（Annual Work Plan）を策定することを主な目的として、1993年9月17日から9月28日まで巡回指導調査団を派遣した。

2-2 調査団の構成

担 当	分 野	氏 名	現 職
団長	総 括	湊 芳 郎	国際協力事業団鉱工業開発協力部 鉱工業開発協力課長
団員	技術協力計画	太田 秀 幸	通商産業省工業技術院総務部研究業務課 研究管理専門職
団員	研 修 計 画	大橋 正 弘	④国際情報化協力センター振興部専門職
団員	システムエンジニア	村上 和 子	④国際情報化協力センター振興部専門職
団員	運 営 管 理	佐々木忠俊	国際協力事業団鉱工業開発協力部鉱工業開発協力課

2-3 調査日程

派遣期間 1993年9月17日～9月28日（12日間）

日 程	調 査 内 容
9月17日（金）	} 移 動
9月19日（日）	

9月20日(月) JICA事務所打合せ、日本大使館・外務省・国立技術教育審議会
(CONET)表敬、サイト視察

9月21日(火) 科学技術庁・情報開発局(SID)表敬・協議

9月22日(水) SIDとの協議

9月23日(木) SIDとの協議、M/D案作成

9月24日(金) M/D署名。JICA事務所、日本大使館報告

9月25日(土)

} 移 動

9月28日(火)

2-4 主要面談者リスト

(1) アルゼンティン共和国側

① 科学技術庁

Prof. Dr. Raúl F. Matera	長官
C. C. Carlos A. Sassali	情報開発担当次官
Lic. Jorge Plano	情報政策局長(SID)兼 情報処理研修センター長(CEDECI)
Srta. María José Alpañés	国際プロジェクトコーディネーター
Ing. Raúl Aleman	SID顧問
Prof. Jorge Favalaro	CEDECI
C. C. Ana Maria Piccin	CEDECI

② 国立技術教育審議会 (CONET)

Marta Pfeffer	教育計画局長
---------------	--------

③ 外務省

Carlos A. Arganaraz	国際協力局二国間協力課長
---------------------	--------------

(2) 日本側

① 日本大使館

宗内誠人	参事官
松井俊英	一等書記官

② JICA シンガポール事務所

川上礼司	所長
永野征一	業務第二課長
山本ファンカルロス	業務第二課

通訳 Masaru Kanashiro

③ プロジェクト専門家

神嶋俊博 チーフアドバイザー

合田ノゾム システム分析及び設計分野専門家

臼木順一 業務調査員

3. 暫定実施計画 (T.S.I.) の進捗状況と年次度計画

3-1 日本側

1991年12月13日に当プロジェクトが開始されてから本調査団派遣迄にはほぼ1年9カ月が経過したが、この間に派遣された専門家の派遣分野と人数は以下の通りである。(詳細は別添ミニッツ参照)

(1) 専門家派遣

a) 長期【実績】 5名

1) チーフアドバイザー	神鳴俊博	92/10/30-94/10/29
2) 業務調整員	白木順一	92/ 7/31-94/ 7/30
3) オペレーティングシステム	豊永 修	92/12/18-94/12/17
4) データベース	佐藤勝夫	92/10/30-93/ 1/31
5) データベース	本多安代	93/ 4/28-95/ 4/27
6) システム分析及び設計	合田ノゾム	92/10/30-94/10/29

b) 短期【実績】 5名

1992年度

施設	中野文雄	93/ 1/22-93/ 2/26
ハードウェア	塩賀利徳	93/ 2/10-93/ 3/ 1
ソフトウェア	高安真弓	93/ 2/10-93/ 4/12
ソフトウェア	國分圭子	93/ 2/10-93/ 4/12

(4名とも、機材据付け、操作指導)

1993年度

教育情報工学	佐藤隆博	93/ 8/22-93/ 8/18
--------	------	-------------------

【予定】

1993年度

1) 教育手法	1名
2) C言語及びC++言語	1名
3) PCデータベース	1名

・調査結果の留意事項

11月に予定されている合同委員会で基礎コースの内容が決まる予定であり、その結果によっては、短期専門家の技術移転分野に変更が生じる可能性がある。(ANNEX 6-2 参照)

(2) 研修員受入

【実績】 3名

1992年度

情報処理分野

Ms. Monica Liliana SILVESTRI 92/11/19-93/ 4/13

Mr. Fernando Alberto CIOCCI 92/11/19-93/ 4/13

1993年度

情報処理分野

Mrs. Ana Maria PICCIN 93/ 5/20-93/ 6/20

【予定】 1名

1993年度

情報処理分野

Miss. Maria de los Angeles MORELLI PINTADO 93/10/ -93/11/

・調査結果の留意事項

- 1) SID と CONET との調整がつかず、日本で研修済みのC/Pの正式配属が決定されていなかったため、早急なる配属を申し入れた結果、10月1日より担当分野を決定し、フルタイムで配置する方針が示された。
- 2) 1993年度の残り1名の研修員について、マルチメディアの研修を希望する旨申し入れがあったため、持ち帰り検討することとした。

(3) 機材供与

1992年度 【実績】

92/12/10 現地港着

92/12/16 サイト着

1) ハードウェア主要機材

①サーバー

6台

中央処理装置 NEC Powermate 486/33Te

磁気ディスク装置 600MB Hard Disk

イーサネットコントローラ

磁気テープ装置 150MB SCSI Cartridge Tape

カラーディスプレイ Multisync 4FG

②MT/WANサーバー

1台

中央処理装置 NEC Powermate 486/33Te

磁気ディスク装置 600MB Hard Disk

イーサネットコントローラ

X25コントローラ		
磁気テープ装置	150MB SCSI Cartridge Tape	
カラーディスプレイ	Multisync 4FG	
③ワークステーション		40台
中央処理装置	NEC Powermate 486SX/25e	
	NEC Powermate 486/33e 4台	
	300NB HDD 磁気テープ装置内蔵	
イーサネットコントローラ		
カラーディスプレイ	Multisync 4FG	
マウス		
ディジタイザー		
④プロッター	Draft Pro DXL	2台
⑤イメージスキャナー	Color Scanjet IIc	2台
⑥カラーレーザープリンタ	キャノン Copier 500	2台
⑦モノクロレーザープリンタ		4台
⑧ローカルエリアネットワーク		
2) ソフトウェア主要機材		
①UNIX (OS)		47台
②DOS	MS-DOS Version 5.0	20台
③UNIX 用リレーショナルデータベース		47台
④DOS 用リレーショナルデータベース		20台
⑤UNIX 用C言語		47台
⑥DOS 用C言語		20台
⑦UNIX 用ワードプロセッサ		40台
⑧DOS 用ワードプロセッサ		20台
⑨UNIX 用スプレッドシート		40台
⑩DOS 用スプレッドシート		20台
⑪X.25		1台
⑫DOS 用イメージ処理ソフト		2台
⑬DOS 用グラフィック処理ソフト		2台
3) その他		
①無停電電源装置		7台
②分電盤		1式

③コンセント設備工事

1式

1993年度【予定】 現地調達 (100%)

1) 第1回現地調達…………… (調達手続き中)

- ①PC用TVプロジェクターセット1式
- ②VTRセット1式
- ③OHP機材1式
- ④車両
- ⑤PC及び周辺機器

第2回以降現地調達 (予定) ……………見積書徴収中

- ①レーザープリンター (白黒)、シリアルプリンター
- ②フィルター
- ③ペンプロッター
- ④イメージスキャナー
- ⑤DOS用PC-network
- ⑥Unix Ware
- ⑦X-Windows graphic environment
- ⑧INFORMIX 4GL Vers.4.1
- ⑨DOS用“CASE Tools”
- ⑩CD-ROM drive
- ⑪PC (80386, VGA, 80MB disk)
- ⑫DOS用Multimedia Extention
- ⑬DOS用Presentation software
- ⑭ワークステーション
- ⑮その他

・調査結果の留意事項

- 1) 1992年度供与機材は全て設置済み
- 2) 2実習室に合計で、ワークステーション36台、サーバー4台を設置し、残りはスタッフ用として技術移転や教材作成に使用されている。
- 3) 今年度供与機材の車両に係る経費 (運転手、登録費、維持管理費) について、ア側負担であることを確認した。

3-2 アルゼンティン共和国側

- (1) 建物施設等プロジェクト・サイト基盤整備状況

建物施設等は下記のとおり、整備されていることを確認した。

① 1階のターミナルルームを除く部屋

(イ) 専門家の執務室 93.1.15整備済

チーフアドバイザールーム及びスタッフルーム

(ロ) 端末器室 92.12 済

(ハ) 小会議室、秘書室、センター長室 92.12 済

② 1階のターミナルルーム

改修工事中。93年中に完成予定

③ 2階の講義室、自習室、会議室及び図書室

当初の2階から3階に変更となり、基礎コースに使用される144㎡は現在改修工事中である。上級コース用の144㎡は、隣接する部屋を94年3月末までに整備を予定している。

④ 空調、内装、証明、その他施設

・調査結果の留意事項

- 1) 備品の調達が遅れている。現状はワークステーション用机、一部の椅子が購入されているのみで、他は未整備である。ア側は、予算は確保されており、残りの備品を早急に整備することを約束した。

(2) 機材措置及び維持管理状況

機材措置及び維持管理状況は、下記のとおり実施または実施予定であることを確認した。

1) 機材措置状況

機材保管上のセキュリティ対策として、フロア隔離(鉄格子、ガラスドア)、窓鉄柵の設置、アラーム設置、夜間警備員の配置措置が取られていた。

2) 維持管理状況

1) 供与機材の保守

(イ) 保証期間内

供与機材の保証期間内の保証条件について、下記の内容で合意・確認がなされた。

- a) 保証期間は、現地でインストール完了した93年4月6日から94年4月5日までの1年間とする。
- b) UPSを除く NEC 製品については、NEC アルゼンティンが窓口となり修理を行う。修理不可能な場合には NEC 東京が本邦で無償修理を行う。この場合の輸送費は JICA が負担する。
- c) 非 NEC 製品 (UPS を含む) については、NEC 東京が窓口となり各メーカーに無償修理を実施させる。この場合の輸送費は JICA が負担する。

(ロ) 保証期間後 (94年4月6日以降)

保証期間後の保守については、ア側の責任でメンテナンス契約を行うこととするが、ア側からその費用の一部負担の要請があった。これに対し、日本側はア側の現状から一部負担の可能性を示唆し、保守内容、金額等を検討し、妥当と認めれば所定の手続きを行った上で実行する旨表明した。

- 2) フロア別機材管理者を設置し、適切な管理を実施することとした。
- 3) 保守管理台帳による一元管理を実施することとした。

(3) 組織、カウンターパート及びスタッフの配置

カウンターパート及びスタッフの配置については、以下の通りであることを確認した。

1992年度 【実績】

センター長※	1	※センター長はSIDと兼務
教務顧問	1	
カウンターパート	5	
	計 7	

1993年9月現在

センター長※	1	注) カウンターパートの雇用は下記の
教務顧問 (不在)	(1)	3形態となっている。
事務管理	1	① CONICET (科学技術研究審議会)
秘書	1	② CONET (科学技術教育審議会)
カウンターパート	6	③ センター長
〃 (未配置)	(4)	
	計 9 (14)	

本調査団とア側との協議により、1993年10月以降の計画を以下の通りとすることで合意した。

- 1) カウンターパートは、10/1からフルタイムで11名を分野別に配置する。(M/DのANNEXI参照)
- 2) センター長は現行、週2日半日勤務となっているが11月からは選任でフルタイムで勤務する。
- 3) トレーニングセクションのフルタイムの責任者を早急に決定する。

(4) ローカルコスト負担

ローカルコスト負担は、下記のとおりであることを確認した。

1992年度 【実績】

(単位：ペソ)

人件費	36,000
施設改修費	85,000
電気、ガス、電話等	41,000
計	162,000

1993年度【実績】(1～8月) 【予定】(93/9～94/2)

(単位：ペソ)

(単位：ペソ)

臨時人件費	18,800		
コピー代	200		
書籍代	400	掲示板	1,200
電話代	3,000	消火器	2,100
施設改修費	60,183	施設改修費	3,300
警備費	10,400	警備費	12,000
その他	450	その他	12,800
物品購入費	6,119	物品購入費	48,600
職員給料	50,833	職員給料	56,000
建物費	8,000	建物費	4,000

計 158,385

計 140,000

合計 298,385ペソ

(M/Dの ANNEX2 参照)

(M/Dの ANNEX3 参照)

1994年度【予定】

(単位：ペソ)

会議費	2,200
資料代	3,000
書籍代	2,000
文具代	2,000
電話代	24,000
印刷費	9,400
人件費	233,000
郵送費	1,500
メンテナンス費用	12,500
計	289,600

(M/Dの ANNEX4 参照)

・なお、ア側から、この他日本側の要求を踏まえ財政当局に108,000ペソの追加要求をしているとの説明があった。

4. 技術協力計画 (TCP) の進捗状況と次年度計画

調査結果の要約にも記載した通り、本プロジェクトは主要機材の設置を完了し、94年4月の基礎コース開講、95年度上級コース開講に向け準備中である。

現在までの進捗状況と年次度計画を協力分野毎に列記すれば以下の通りである。

4-1 研修コース

(1) 基礎コース

93年4月中に主要機材の据付が完了した。その後、基礎コースのコース内容、カリキュラム、参加人員、期間、募集要項等の詳細を検討中。

(2) 上級コース

コースの全体スケジュール等を検討中。

(3) セミナー

セミナーの募集要領を準備・作成中。

・調査結果の留意事項

- 1) 両コースのカリキュラム、シラバスの策定作業等の前提となる共同作業体制（各ワーキンググループ）の構築が予定より遅れており、11月開催予定の合同委員会 (Joint Committee) までに早急に実施体制の整備を進めることとした。スケジュールの遅延については日・ア双方とも強く認識しており、共同作業を積極的に進める上で日本側がリーダーシップをとるよう要請された。
- 2) 基礎コースは、94年4月に予定どおり開講することが確認された。
- 3) 上級コースのコース内容の骨子は、R/Dに添った内容とすることが再確認された。

4-2 合同委員会の開催

(1) 第1回合同委員会

9月15日に開催済み。主な審議事項は以下のとおりである。

- a) センターの正式名称を「SEDECI」とする。
- b) ア国内の中小企業をターゲットした特徴のあるセンターとする。
- c) センターの機構、科学技術庁内の位置付けを明確にする。(日本側要望)
- d) センターの体制・組織（カウンターパートの人員配置等を含む）、予算の実績と今後の計画の明確化

(2) 第2回合同委員会

11月開催予定。基礎コース及び上級コースの全体スケジュール、コース内容の骨子、開講時期、募集要項等を審議する予定。

4-3 開所式

11月末にメネム大統領の訪日が予定されているが、訪日前に大統領の出席の元に開所式を計画している。

5. プロジェクト運営上の問題点

5-1 センター組織の確立

本センターが科学技術庁内のSIDでどのように位置付けされているのか不明確なため、位置付けの明確化とセンター組織の確立を強く要求しているが、ア側からまだ正式な回答はなく、引き続き、督促していく必要がある。

5-2 カウンターパート、スタッフ等の勤務体制及び増員要求

カウンターパート、スタッフ等はア側の財政難等の事由により、変則的な半日勤務体制となっているが、プロジェクト活動を円滑に推進するためには、フルタイムの勤務体制が必要であるとの申し入れを行った。これに対し、ア側より93年10月～11月からカウンターパートの分野別フルタイムへの移行と増員、センター長の専任かつフルタイム化等を実施する旨の回答があった。

5-3 センターの予算、経費支出の明確化及び

プロジェクト活動に必要なローカルコストの確保

本センターに係る予算、経費支出詳細が不明瞭で、かつ一部のローカルコストが支出されないとの問題が発生している。この問題に関し、調査団から93年実績と十分な予算の確保、並びに94年予算の計画を明らかにするよう要求したところ、別添M/D ANNEX 2～ANNEX 4に示すように費目ごとに分類した資料の提出があった。

ア側の財政状況等を配慮すれば、かなり前向きな対応と考えれるが、今後ともその計画と執行状況を注視して行く必要がある。

5-4 供与機材の保守

供与機材の保証期間内及び保証期間後の保守について、NEC製品、非NEC製品に分類した上で故障時の修理体制をア側と協議し、合意に達した。(詳細は3-2(2)に記載)

6. 調査団長所感

本プロジェクトは協力開始後1年9カ月を経過したが、日本側がほぼ当初計画どおり専門家派遣、研修員受入れ、機材供与等の投入を行ってきたのに対し、アルゼンティン共和国側の投入はカウンターパートの配置を始め運営・管理予算の確保、施設の改修等ほとんどの面で大幅に遅延しているため、技術移転そのものに支障をきたし、来年4月予定の研修コース（基礎コース）の開講も危ぶまれる状況であった。

このため、今回の調査・協議に当たっては、「ア」側に、かかる事態の改善を申し入れ、今後の具体的な措置の確約を取りつけることに主眼を置いた。

これに対し「ア」側は、大使館からの事前申入れ等もあって、ササリ科学技術庁次官が3日間にわたるほぼ全ての協議に出席する等誠意ある対応を示し、当方の申し入れに対しても概要次のとおり前向きな改善措置を約した。

- (1) 10月からフルタイムのカウンターパート11名を配置し、所長も11月からフルタイム勤務とする。
- (2) 1994年予算は、正規の科技庁予算としてR/D時に約束した289,600ペソを要求、財政当局の承認を得て国会に上程中。これに加えて、日本側の要望に沿って、108,000ペソを追加要求している。
- (3) 基礎コース用の教室等144㎡は現在改修中で年内に完了予定。上級コース用の教室等残り144㎡は隣接スペースに来年3月までに確保する。
- (4) 基礎コースはR/Dのマスタープランに沿った内容で、予定どおり来年4月に開講する。そのため、日本人専門家の指導を得て今後の詳細実施スケジュールを策定するとともに、コースの概要をとりまとめ11月の第2回合同委員会で承認を得た後、募集等の活動に入る。

以上の対応は、「ア」国の財政状況等を勘案すると最大限の誠意を示したものと思われ、現にマテラ長官からも、本プロジェクトの重要性は十分に認識している旨の発言が再三あった。

また、マテラ長官自身、11月末訪日予定の大統領に本プロジェクトのことは報告しており、訪日前に計画している開所式に大統領の出席を打診したところ、出席したい旨の返事を得ているとのことであった。

但し、本プロジェクトのこれまでの経緯を振り返ると、今回の「ア」側の回答が如何に実行されていくか、必ずしも樂觀は許されないとと思われるところ、十分注意して見守っていく必要がある。

以上

資料 1. ミニッツ

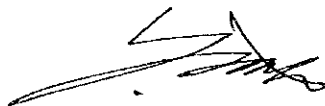
THE MINUTES OF DISCUSSIONS
BETWEEN THE JAPANESE TECHNICAL GUIDANCE TEAM
AND THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF THE ARGENTINE REPUBLIC
ON THE JAPANESE TECHNICAL COOPERATION FOR
THE INFORMATICS TRAINING CENTRE
IN THE ARGENTINE REPUBLIC

The Japanese Technical Guidance Team (hereinafter referred to as "the Team") organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Mr. Yoshiro Minato, JICA, visited the Argentine Republic from September 19 to September 25, 1993 for the purpose of reviewing the activities of the Informatics Training Centre Project in the Argentine republic (hereinafter referred to as "the Project") and formulating further operational plans for promotion of the Project.

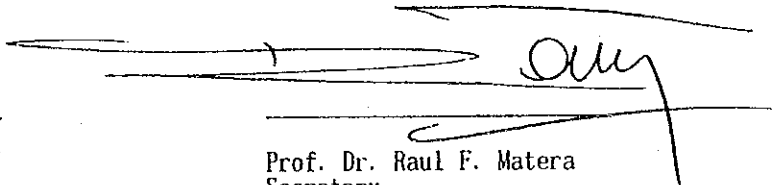
During its stay in the Argentine Republic, the Team exchanged views and had a series of discussions with the authorities concerned of the Government of the Argentine Republic over the matters for the successful implementation of the Project.

As a result of the discussions, both parties agreed upon the matters referred to in the document attached hereto.

Buenos Aires, September 24, 1993



Mr. Yoshiro Minato
Leader,
Japanese Technical Guidance Team,
Japan International Cooperation
Agency,
Japan



Prof. Dr. Raul F. Matera
Secretary,
Secretariat for Science and
Technology,
The Argentine Republic

THE ATTACHED DOCUMENT

Regarding the Project activities so far, JICA has dispatched 5 long-term experts and 5 short-term experts and has accepted 3 Argentine counterpart personnel for training in Japan . In addition ,JICA has provided almost all the main machinery and equipment necessary for the implementation of the technology transfer in the activities of the Project .

Undersecretariat of Informatics and Development (hereinafter referred to as "SID") ensured the allocation of necessary budget, counterpart personnel and facilities required for the smooth implementation of the Project.

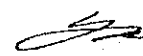
Thus, based on the common recognition of the present situation of the Project as stated above, both sides confirmed the continuous cooperation between the Japanese and Argentine Governments for further progress of the Project.

The main matters and results of the discussions are as follows.

1. Allocation of Counterpart Personnel

(1) The Argentine side, taking in account the critical moment of the Project, expressed that eleven(11) counterpart personnel will work full-time, starting October 1, 1993 as shown in ANNEX-1. Special cases that could not start on that date because of their old agreements or other reasons, would be postponed in accordance with Japanese experts.

(2) The Argentine side also expressed that ① the Director of the Center is scheduled to become full-time from November, 1993 and ② they will decide the Head of Training Section on full-time working basis and propose to the Japanese Expert Team immediately.



2. Budgetary Allocation

The Argentine side explained as follows.

- (1) The amount expended from January to August ,1993 for the Project is approximately 158,000 pesos as shown in ANNEX-2.
Budget of 140,000 pesos is secured for the period from September to February, 1994 as shown in ANNEX-3.
Total amount of 298,000 pesos is allocated for the Project from CONICET budget.
- (2) As for the budget in 1994, SID requested the amount of 289,600 pesos to the authority concerned as the Project Budget as shown in ANNEX-4, and the request is now under consideration of the Parliament.
- (3) Based on the request from the Japanese side, the Argentine side has requested amount of 108,000 pesos to the authority concerned additionally for further improvement of the Project activities in 1994.

3. Renovation of Facilities

Lecture room, meeting room, study room and library for Basic Course (total 144m²) are now under renovation on second floor, and will be available within 1993.

The next block(144 m²) on the same floor will be renovated by the end of March , 1994 as lecture room , meeting room and others for Advanced Course.

(refer to ANNEX-5)

4. Training Courses in the Centre

Both sides agreed as follows.

- (1) Basic Course shall be conducted from April ,1994 as scheduled in TSI signed on December 13 ,1991.
- (2) Training Courses shall be developed and operated in accordance with on the MASTER PLAN in R/D signed on December 13 ,1991.
- (3) Japanese experts and Argentine counterpart personnel will jointly formulate the outline and contents of Basic Course and submit it to the Joint Committee to be held on November ,1993 to get approval.

After that , all the necessary actions will be taken according to the implementation schedule made by both Japanese and Argentine sides.

5. Annual Work Plan

According to the present state of the Project , both sides agree to formulate ANNUAL WORK PLAN IN JAPANESE FISCAL YEAR OF 1993 as shown



in ANNEX-6.

6. Warranty for the Equipments

Both sides agreed the warranty period and conditions for the equipments provided by Japan as shown in ANNEX-7.

7. Maintenance of the Equipment

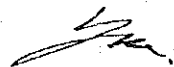
The Argentine side requested Japanese side to share the maintenance fee of the equipment provided by Japan.

The Japanese side replied the possibility to support a part of maintenance fee with some condition and limitation and explained necessary procedure including exchange of minutes for this matter.

For the first step ,the Japanese side asked the Argentine side to clear the contents and requirements of maintenance contract.

8. Inauguration Ceremony

Argentine side expressed their wish to hold the Inauguration Ceremony by the end of November ,1993.



ATTENDANTS OF THE MEETING

1. Japanese Side

(1) Technical Guidance Team

Mr. Yoshiro Minato Director, Technical Cooperation Division,
Mining and Industrial Development Cooperation
Department, JICA

Mr. Hideyuki Ota Research Administration Division, Agency of
Industrial Science and Technology ,
Ministry of International Trade and Industry

Mr. Masahiro Ohashi Consultant, Planning and Coordination Division,
Center of the International Cooperation for
Computerization

Ms. Kazuko Murakami Consultant, Planning and Coordination Division
Center of the International Cooperation for
Computerization

Mr. Tadatoshi Sasaki Technical Cooperation Division,
Mining and Industrial Development Cooperation
Department, JICA

(2) Japanese Expert

Mr. Toshihiro Kamishima Chief advisor

Mr. Nozomu Goda System analysis and design

Mr. Junichi Usuki Coordinator

(3) JICA Argentine Office

Mr. Seiichi Nagano Director, Technical Cooperation Division

Mr. Juan Carlos Yamamoto Technical Cooperation Division



2. Argentine Side

(1) Secretariat of Science and Technology

C.C. Carlos A. Sassali Undersecretary, Undersecretariat of Informatics and
Development (SID), Secretariat for Science and
Technology

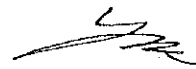
Lic. Jorge Plano Director, National Direction of Informatics Policies
and Resources, SID

Srta. María José Alpañés Coordinator, International Projects. SID

Ing. Raúl Alemán SID

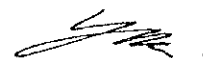
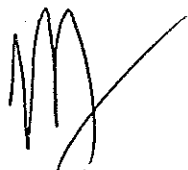
Prof. Jorge Favalaro CEDECI

C.C. Ana María Piccin CEDECI



AREAS DEL PERSONAL ARGENTINO

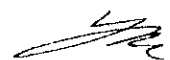
Ana María Piccin	Analisis y Diseño de Sistemas
Bibiana Rossi	Analisis y Diseño de Sistemas
Eva Bernardez	Analisis y Diseño de Sistemas
María de los A. Morelli	Base de Datos
Ramón García Martínez	Base de Datos
Monica Silvestri	Base de Datos
Fernando Ciocci	Base de Datos
Norma Goicoechea	Sistemas Operativos
Andres Giacomelli	Sistemas Operativos
Alfredo Tassano	Sistemas Operativos
Guillermo Ziegler	Sistemas Operativos



ANNEX 2

<u>GASTOS REALIZADOS EN 1993</u>	(Enero - agosto 1993)
Personal temporario	18.800
Fotocopias	200
Gastos libreria	400
Telefono	3.000
Reforma edificio	60.182,62
Vigilancia	10.400
Otros gastos	450
Adquisición otros bienes	6.118,80
Sueldos	50.833
Edificio	8.000

TOTAL	158.384,42



**PROYECTO
CENTRO DE CAPACITACION EN INFORMATICA EN LA
REPUBLICA ARGENTINA
(SECYT-JICA)**

ANNEX 3

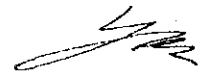
PRESUPUESTO SET/93-FEB/94

RUBRO	DESCRIPCION	1993					1994			TOTAL
		SET	OCT	NOV	DIC	ENE	FEB			
A	Muebles	-	-	15,0	-	13,6	20,0	-	-	48,6
	Matafuegos	-	-	-	2,1	-	-	-	-	2,1
	Puertas	-	-	-	3,3	-	-	-	-	3,3
	Señalización	-	-	-	1,2	-	-	-	-	1,2
	Subtotal A	-	-	15,0	6,6	13,6	20,0	-	-	55,2
B	Caja Chica	0,1	0,1	0,1	0,1	-	-	-	-	0,4
	Gastos Varios	1,4	1,4	1,4	1,4	-	-	-	-	5,6
	Seguridad	3,0	3,0	3,0	3,0	-	-	-	-	12,0
	Limpieza	1,7	1,7	1,7	1,7	-	-	-	-	6,8
	Subtotal B	6,2	6,2	6,2	6,2	-	-	-	-	24,8
C	Sueldos	14,0	14,0	14,0	14,0	-	-	-	-	56,0
	Edificio	1,0	1,0	1,0	1,0	-	-	-	-	4,0
	Subtotal C	15,0	15,0	15,0	15,0	-	-	-	-	60,0
TOTAL A+B+C		21,2	21,2	36,2	27,8	13,6	20,0	-	-	140,0

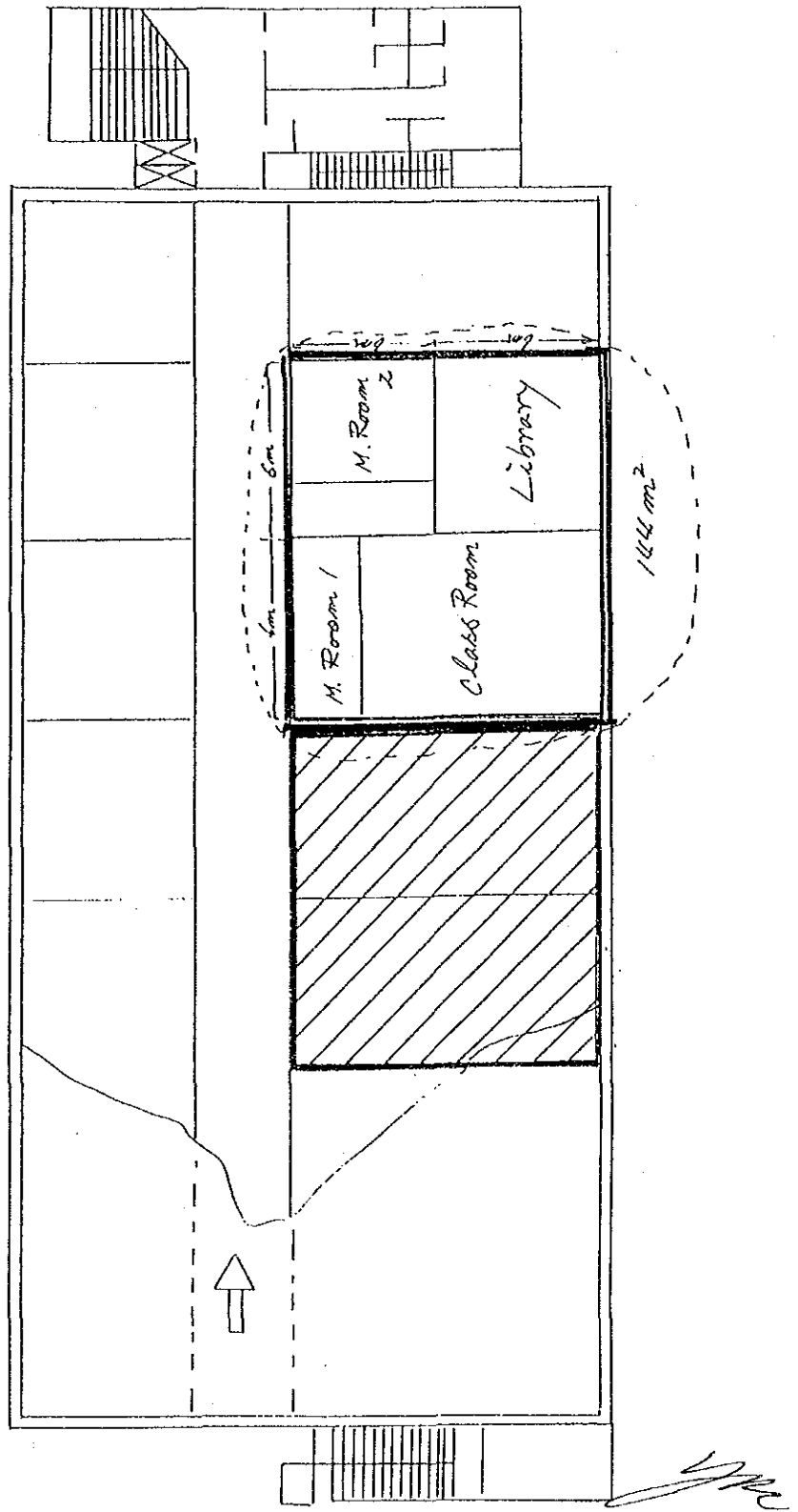
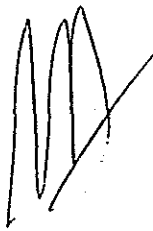
Las erogaciones de B y C para enero y febrero de 1994 se efectivizarán con presupuesto 1994.

PRESUPUESTO APROBADO AÑO 1994

1 Almuerzos de trabajo	2.200
2 Papelería	3.000
3 Libros, Revistas	2.000
4 Utiles de escritorio y oficina	2.000
5 Telefono	24.000
6 Servicio de imprenta	9.400
14 Personal	233.000
15 Franqueo	1.500
16 Mantenimiento de equipos	12.500
TOTAL	289.600



Floor Layout.



ANNUAL WORK PLAN

(1) Japanese side

① Long-Term Experts

- a. Chief advisor (T. Kamishima) Oct. 30 , 1992 ——— Oct. 29 , 1994
- b. Coordinator (J. Usuki) JUL. 31 , 1992 ——— JUL. 30 , 1994
- c. Expert on operating system (O. Toyonaga) Dec. 18, 1992 — Dec. 17, 1994
- d. Expert on database (Y. Honda) Apr. 28 , 1993 ——— Apr. 27 , 1995
- e. Expert on systems analysis and design
(N. Goda) Oct. 30 , 1992 ——— Oct. 29 , 1994

② Short-Term Experts

- a. Expert on Educational information Technology
(T. Sato) Aug. 8 , 1993 ——— Aug. 18 , 1993
- b. 1 expert on Educational information Technology from the beginning
of Nov. , 1993
- c. 2 expert from Feb. , 1994

③ To accept 2 counterpart personnel as training participants.

- a. Information processing technology
(Mrs. Ana Maria PICCIN) May. 20 , 1993 ——— Jun. 20 , 1993
- b. Information processing technology from Nov. , 1993 up to Dec. , 1993
(Miss. Maria de los Angeles MORELLI PINTADO)

④ To provide the equipment within the range of the Japanese budget.

(2) Argentine side

- ① To submit A-1 application forms for 2 short-term experts to reach
Japan by the end of Nov. , 1993.
- ② To allocate Argentine counterpart personnel in accordance with the
implementation of the Project.
- ③ To renovate the building and to arrange the facilities.
Lecture room, study room, meeting room and library for Basic Course
(144 m²) will be completely available in 1993.
- ④ To allocate budget necessary for operation and management of the
Project such as personnel cost, operation cost and others.




ANNUAL WORK PLAN FOR 1993

ANNEX 6-2

Items	Year	1993												1994		
	Month	1~3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
I. Japanese side																
1. Long term experts																
1) Chief advisor																
2) Coordinator																
3) Operating system																
4) Database																
5) Systems analysis and design																
2. Short term experts																
1) Educational information Technology																
2) (Undecided)																
3) (Undecided)																
3. Training of Argentine counterpart in Japan																
1) Information processing technology																
4. Dispatch of Technical Guidance Team																
								▲		△						
II. Argentine side																
1. Provision of counterparts																
Administrative staff and other necessary supporting staff																

Items	Year	1993										1994		
	Month	1~3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
2. Submission of the documents														
1) A-1 Forms for experts						▲				△				
2) A-2,3 Forms for equipment			▲											
3) A-4 Form for counterpart training in Japan			▲											
3. Training course														
1) Basic course														
2) Seminars														

- 1. ————— original plan
- 2. ————— accomplishment
- 3. - - - - - plan

WARRANTY FOR THE EQUIPMENTS

(1) Warranty period

One (1) year from April 6 . 1993 to April 5 . 1994

(2) Conditions

① NEC's products (except UPS)

NEC's local agency will take necessary measures for the maintenance,
and do trouble shooting.

② Other products (including UPS)

NEC Tokyo will take necessary measures for the maintenance.

The Argentine side shall inform NEC Tokyo , whenever the trouble occurs.

According to the status of the troubles, NEC Tokyo will cordinate trouble
shooting with other venders in Argentine or in Japan.



JICA